本事例の基礎データ

<table>
<tr><td>カテゴリ</td><td colspan="3">情報モラル</td></tr>
<tr><td>学校種</td><td>小学校</td><td>事例提供者</td><td>大田区立梅田小学校</td></tr>
<tr><td>学年</td><td>第４学年</td><td>教科等</td><td>特別の教科　道徳</td></tr>
<tr><td>主題名
価値項目</td><td colspan="3">知られたくなかったのに
B(10)相互理解・寛容</td></tr>
<tr><td>主な ICT 機器</td><td colspan="3">・タブレット PC（キーボード付き Chrome OS 機／一人１台）</td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="3">他人に知られてもよい情報と知られたくない情報は、人によって違うことに気付き、相手のことを考えて行動しようとする心情を育てる。</td></tr>
<tr><td>「情報活用能力＃東京モデル」の位置付け</td><td>情報モラル</td><td>STEP 2</td><td>・自他の情報の大切さを理解できる</td></tr>
</table>

本事例における教育の情報化について

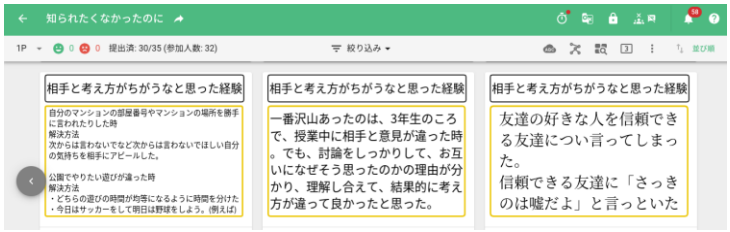
<table>
<tr><td>ポイント１</td><td>一人１台端末の効果的な活用
Google Forms やスクールタクトを活用する。意見の違いを視覚的に見せることで、他人に知られたくてもよい情報と知られたくない情報は人によって違うことに気付けるようにする。そして、「人によって考え方に違いがある。」という点にも迫ることができるようにする。</td></tr>
<tr><td>ポイント２</td><td>多面的・多角的に考えることで、情報モラルを養う
文部科学省「教育の情報化に関する手引」には、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」を情報モラルと定めており、本授業では、情報機器の取り扱いだけではなく、人間としての生き方を見つめさせるよう指導することに留意する。解決策が一つだけに限った問題ばかりではなく、何が正しいかを考えながら行動することも求められる。本事例では、情報機器の取り扱いについてのみに焦点化せず、児童が広義的にプライバシーについて考え、議論できるように「特別の教科　道徳」として取り扱うことにしている。</td></tr>
</table>

本時の流れ

段階	●主な学習活動・児童の活動◎主発問	○支援・留意点　　☆評価
導入	**●これまでの生活の中で経験したこと（自分の個人情報）について話し合う。** ・アンケートに答え、結果について交流する。 ①みんなにあなたの習い事について知られてもよいですか。 ②みんなにあなたの特技を知られてもよいですか。 ③動画投稿サイトに自分の写っている動画をアップしてもよいですか。	○その場でアンケート（Google Forms）を行い、自分と他の人との認識の違いを意識させる。
展開	**●アニメーションを視聴する。** **●登場人物の気持ちを考える。** ・ミカさんが、アスカさんの特技をみんなに伝えた時の２人の気持ちを考え、交流する。 ◎どうして２人の思いにずれが出てしまったのかを考える。 **●これまでの経験を振り返り、自分の考えを伝えて交流する。** ・相手と考え方が違うと思った経験や行動を思い出しスクールタクトに書き込む。	○ミカさんには悪気がないことをおさえておくことで、主発問を投げかけた際に、二人の感覚にずれがあることに気付けるようにする。 ○導入時のアンケート結果を用いることで、人によって考え方に違いがあることを視覚的に理解できるようにする。 ○意見が出なかった場合は「ミカさんが一方的に悪いね。」と問いかけ、児童の考えを揺さぶることで、どちらも悪気があるわけではなく、人によって考え方に違いがあることに気付くことができるようにする。 ○経験を想起することで、相手の気持ちを考えて行動することが大事だと再認識し、内容項目について考えを深められるようにする。 ○スクールタクトで自分の経験や振り返りを共有することで、他人の考えや思いを尊重する。 ☆自分の経験から、自他の考え方や立場の違いを認め合い、友達の意見の大切さを理解する。
終末	**●本時の学習を振り返る。** ・相互理解について学んだことや気付いたことについて振り返る。	○学習を通して、互いの意見や考えの違いを尊重することの大切さを理解し、気を付けることを考える。

授業の実際

【ポイント１】一人１台端末の学習支援クラウドの効果的な活用



学習支援クラウドを活用し、児童の考えや思い、学習の振り返りを児童・教員と共有する。共有することで、挙手や発言が苦手な児童の考えや思いを伝え合うことにつながる。

【ポイント２】多面的・多角的に考えることで、情報モラルを養う

日頃の学校生活では、情報機器の扱いを通して個人情報や情報モラルについて考えることが多い。そのため、本時では、身の回りの他者との関わりの中にある情報について考え、生活や生き方を見つめる機会となるように促す。情報に関する自分や他者の権利を尊重する。

今後に向けて

学習支援クラウドを活用して児童の意見を共有することが、挙手の苦手な児童や考えが浮かばない児童の支援につながった。しかし、意見を共有したときに、意図からずれている意見を参考にしてしまう児童もいたため、意見の取り上げ方や発問の仕方等の指導方法について工夫する必要がある。また、スクールタクトでは誰が書いたものか分かる仕様になっているが、ムーブノートは、名前を消して意見のみを見ることができるので、それぞれのツールの特徴を理解し、効果的に使い分けていく。

情報モラルやプライバシーについて、多面的・多角的な内容で学習を進めることは効果的であった。しかし、スキルを教える時間も確保するため、今回の内容を二つに分けて、道徳と学活の時間に学ぶ情報モラルを組み合わせることも考えられる。多面的・多角的に学習することで、情報モラルについて児童がより深く考えたり日常生活に活用したりできるようにしていく。